

第1回統計調査員研修会の開催

県主催による初の試みである統計調査員研修会は、さる11月10、11の両日76名の調査員が参加し、実施された。

この研修会は調査員の資質の向上と調査員の組織化を図ることを目的に実施したもので、調査員の選任難が全国に波及している折から、その確保対策の一つとしても時宜を得たものであった。

11月10日当日は雨が予想されたが、運よく快晴にめぐまれた。

さて、統計局の見学は、最初に関戸統計局長の歓迎のことばで始まった。

局長は「日頃の調査に対する調査員のみなさんのご協力に感謝している。お蔭で統計の利用は日増しに増大し、国会での討議には統計資料は不可欠となっている。また、今年8月に実施された国際統計協会総会において各国の統計関係者から、日本の国勢調査は正確性において世界一の評価を受けた。統計の先進国であるアメリカのセンサスなどがなかなか正確性を得られないのに反し、わが国の国勢調査がスムーズに進展していることは全く喜びにたえない。これからみなさんが見学する統計局は、今年創設百年を迎えることになったが、今後も、よりいっそう迅速で正確な統計の作成に努力するので、みなさんのご助力を賜りたい」と統計の現状について説明があつた。

このあと、統計局職員の案内により45年国勢調査の製表状況、穿孔室、電子計算機による処理状況および調査票保管倉庫など局内各所を見学した。

翌11日熱海市で開かれた研修会では「統計調査員の組織化」にテーマをしぼり討議をした。冒頭、あいさつに立つた田口統計課長はこの研修の意義について述べ、調査員の組織化について……「現在県内92市町村のうち組織がある市町村が34、未組織の市町村58と組織化をみない市町村が全体の63%となっている。この第1回研修会の機会にどうか組織づくりにご協力願いたい」と結び参加者全員のわれるような拍手のなかであいさつを終り、つづいて組織をもつ各市町村の調査員から活発な発言があつた。その内容は組織化のいきさつや現状などであり、研修旅行や永年勤続者の表彰および研究会などが調査員相互の親睦と研さんに大きな役割りを果していることについて特に説明したものであつた。その他組織のある市町村調査員から発言を求める声があつたが時間のつごうにより割愛された。

これらの成果のほかに、参加者を大いに喜ばせたことは各市町村の代表のかたがたと初めて一堂に会する機会をもつたことである。車中や夕食の席上で、それぞれの市町村の様子や組織の必要性、統計調査のあり方などを話題に話し合う風景はまるで旧知の仲のようだった。

このように所期の成果を、十分に達成したことは下記に参加者アンケートの結果が如実に示している。最後に



〔統計局穿孔室の見学〕

この研修会にご協力くださった市町村統計関係者のみなさんのご協力に対し厚くお礼申し上げますと同時に、明年は全市町村の参加をもつてより盛大に開催できることを期待するものである。

昭和46年度統計調査員研修会結果

(アンケート調査による)

出席統計調査員数		76名		
1 研修結果について	有意義であつた	74名		
	意義がなかつた	0		
	その他	2		
2 開催時期は何月ごろがいいですか。	11月	53名	3月	3名
	10月	13	5・7・9月	2
	8月	4	4・6月	1
3 日帰りと宿泊の研修のどちらを希望しますか。		宿泊	75名	
		日帰り	1	
4. 研修地について	県外	69名	県内	4名
			どちらでもよい	3名
5. 懇親会の経費一部負担(1,500円)について	この程度はやむを得ない。			59名
	一部負担をふやして盛大にやる。			
	その他			
6. 研修に対する要望・意見	毎年実施してほしい。			29名
	各市町村2名あて参加させてもらいたい。			
	事前に調査員である目印を配布してくれ。			
	余裕ある日程で十分に研修をしたい。			
	意見交換の時間を多くしてもらいたい。			
	新任者・中堅層を対象とした研修をおねがいしたい。			
	市町村統計係員も出席させてくれ。			
	統計局の視察良好			
未記入			17	

第13回茨城県統計大会の開催

県と県統計協会の共催による第13回茨城県統計大会は、11月5日午前10時から、水戸市千波町の茨城県立県民文化センター大ホールで盛大に開催された。

大会は大会参加を熱望する調査員の要請に応えるため、従来の小ホールから大ホールに会場を移し、約千名の参加者を迎えて挙行された。

あいさつに立つた岩上県知事は「日頃、何かと人の目立たぬところで常にご協力賜わっているみなさま方に心から深く感謝と敬意を払っている。物事を判断する唯一のよりどころである統計を基礎としてよりよい県政をつくりあげていきたい。統計は事実を物語るものである。この事実というものは何人も否定することはできない。この中立的できわめて正確な統計こそわれわれの生活を支える柱である」と述べた。

ついで各種の調査に功労のあつた統計職員や調査員に表彰状が贈られ、また、茨城県統計グラフコンクールで三席までに入選した児童・生徒の表彰もあわせて行なわれた。そして、行政管理庁長官、県議会議長などの祝辞



【知事のあいさつ】

も述べられた。

グラフコンクールに入選した児童・生徒の研究発表は入選者にふさわしく、てきぱきした説明で場内の耳目を集めていた。また、大会初の試みであるアトラクションには県警音楽隊が出演し、花をそえた。

なお、大会で決議された宣言は次のとおりであった。

宣 言

社会経済情勢の急激な変ぼうのもとで、統計の果たす役割りはまことに重大である。

このとき第13回茨城県統計大会にあたり、われわれは統計の意義と使命をさらに自覚し、決意を新たにして次のとおり宣言決議する。

1. 地域社会の変動に即応できる統計情報の整備充実につとめる。
2. 社会のあらゆる層に対し、統計の理解と関心を高め、統計の高度な利用促進をはかる。

昭和46年11月5日

第13回茨城県統計大会



【研究発表】

第13回茨城県統計大会に出席して

鹿島郡旭村立旭中学校教諭 高 柳 照

菊香る良き日11月5日、文化センターで、第13回茨城県統計大会が開催されました。この会は統計に功労のあつたかたがたと、第22回茨城県統計グラフコンクール入選者の表彰が主とされるものです。私は統計グラフの方で出席させていただきました。席上、岩上知事は「日進月歩の社会経済情勢の激動する現代において、これに対応する指針となり、また現状を正しくは握し、これに基づ

き将来を展望する計画策定の礎石となるものはまさに統計であります」とのべられています。現在の学校教育の中でも統計のしめる分野は幅広くなつて来ていますが、私が統計教育と関係をもつようになったのは、今から9年前旭中学校が3か年の統計教育指定校を引き受けた時からです。その当時は先生方が統計教育とはどんな事なのかかわからず校長先生を始めとして、全職員で統計教

育の理解に努めました。統計教育先進校の見学やら各種統計大会への出席、教育書の購入伝達等たいへんなものでした。でも、3か年の完結発表をする頃には先生も生徒もすっかり統計教育が身について、自分たちの生活の中に統計を生かして行く事が出来るようになりました。統計グラフコンクール応募もその時からです。統計グラフ作成も始めはなかなか技術面や、資料の選び方等がたいへんでしたが、既存統計から自分たちの生活の中に目をむけるようになり、身近な学校生活や、村の農業のあり方、農村の諸問題等から統計グラフを作るようになりま

したが、まだまだ自分たちの身の回りに統計調査をして考えなければならない問題が数多くあるようです。今後さらに正確適正な統計グラフが作れるよう努力をして行きたいと思います。今年は会場が大きくずいぶんゆつたりした会場でした。そこで結城市立江川南小学校のかたがたとともに旭中の統計グラフの作り方についての発表も聞いていただきました。とすれば私自身統計に対する意志のぐらつきます時、統計大会に出席しましてさらによい統計グラフを作つて行こうとする意志を強くいたしました。

解析研究会の開催

1. 商工統計解析研究会

統計を深くみつめると非常に奥の深いもので、統計に関係するわれわれ職員においても、日常の業務の中で常に勉強が必要であり、その一端として解析研究会を毎年2回実施している。

46年度第1回の研究会は、10月8日国保会館において、通商産業省統計解析課奈良部志保子班長を講師に招き、鉱工業生産指数に関する講話と討議を行なった。

鉱工業生産指数は、毎月生産動態統計調査として、事業所から報告をいただいているものを基礎として、国および県において毎月の生産の動きを指数とし公表し、特に国においては月例経済報告として閣議にはかり、景気の動きを示す指標として重要視されているものである。

ことに44年9月物価安定を目的とする金融調整措置により景気停滞色を示して以来、46年5月の生産伸び率の低下と、これらの是正処置、46年8月15日のドルショックと、景気激変の産業界にあつては、これら生産の動向を正しく、早く知るためには、抽出調査による生産を正

確に指数化し、公表することがわれわれの職務であるわけです。

このようななかにあつて、今回の解析研究会は県の鉱工業生産指数作成のための研究会で、その内容は

1. 指数について
 - (1) 指数の意味と性質
 - (2) 通商産業省関係経済指標とその利用
2. 指数の種類
個別指数(品目指数)と総合指数
3. 指数のつくり方について
基準時、ウェイト、算式、季節調整
4. 指数改訂の手順

についてであり、参加した県統計課および庁内関係課職員ならびに一部市町村職員などあわせて約30人が終日熱心に勉強し、多大の取かくをおさめることができた。

(県統計課商工統計係)

2. 法人企業統計解析研究会

10月20日に、水戸市梅香町ときわ荘で、法人企業統計解析研究会が開催された。

この研究会は、別項の商工統計解析研究会とともに、主として県統計課職員を対象に、統計の結果解析の手法等について研究するため、開催されたものである。

法人企業統計は、県内で活動する営利法人を対象に、標本調査の方法で、毎年実施されているもので、調査事項は、主として法人の決算事項(貸借対照表や損益計算書)となつている。

この法人企業統計を実施し、その結果を解析するうえで生ずる諸問題について研究すること、これが、こんどの研究会のねらいである。

そこで、今回は、はじめての研究会でもあることから、法人企業統計の企画設計に関する基礎的事項について研究することにし、次のテーマを取り上げ、それぞれ

のテーマにふさわしい講師をお願いした。

企業会計のしくみと財務諸表(講師 県商工労働部経営指導課主査兼商業診断係長 久野尚氏)

法人企業統計の諸問題(講師 行政管理庁行政管理一局統計審査官 助川宏氏)

研究会に参加したのは、県統計課職員と一部の市町村の職員を合わせた25人であつた。

久野講師は、多年、企業経営の指導に当たつている豊富な経験を背景に、受講者にはなじみの薄い企業会計の考え方や財務諸表の見方について、懇切な手引きをされた。また、助川講師は、各省庁の統計を審査している広い視野に立つて、企業に関する諸統計の紹介、解説をされ、さらに企業統計の実施上生ずる各種の問題についてその対策を示唆された。(県統計課県勢統計係)

工業統計・工業実態基本調査等の実施について

県統計課商工統計係

毎年12月31日を調査期日とする工業統計調査を実施するため、既に市町村事務担当者会議を実施いたしました。が、本年は特に第4回工業実態基本調査が行なわれ、茨城県工業実態調査と3つの調査が実施されますので、その概要をお知らせいたします。

1. 工業統計調査（指定統計第10号）

わが国における製造業に属する事業所を悉皆調査するいわゆる製造業に関する国勢調査です。

この調査には知事の任命をうけた県内500余名の工業統計調査員が事業所にお伺いし、調査票の配付収集を行います。事業所の責任者（申告義務者）は自ら記入して申告する義務があります。

2. 第4回工業実態基本調査（指定統計第93号）

中小企業の実態を明らかにし、中小企業の経営の合理化、近代化の指針に役立たせるための資料を得ることを目的とする調査です。

これは標本調査で製造業のうち172業種に属する通商産業大臣が指定する1,470の企業について行ないます。工業統計調査と同時に調査員が調査票の配付収集を行いますので申告してください。

3. 茨城県工業実態調査

本県製造業の主体をなす重工業部門の下請の実態を調査するため従業者4人以上の事業所を対象に第4回工業実態基本調査の項目の一部を調査するものです。

また、調査対象は第4回工業実態基本調査との重複をさけておりますので調査にご協力ください。

統計ニュース

◇ 12月の主な行事 ◇

- 1～2日 家計調査員打合せ会
- 1～3日 昭和46年工業統計調査市町村打合せ会
- 6～8日 昭和46年小規模事業所給与等実態調査説明会
- 8～17日 昭和47年農業基本調査市町村説明会

- 9～10日 常住人口調査市町村事務打合せ会
- 31日 昭和16年工業統計調査日
- 〃 昭和46年小規模事業所給与等実態調査日
- 〃 昭和46年貯蓄動向調査日

■ 統計グラフ全国コンクールの結果 ■

全国統計協会連合会主催による第19回統計グラフ全国コンクール審査会は、10月18日、東京で行なわれた。

その結果、入選作品が決定され、各都道府県統計協会を通じて、入選者に賞状と賞品が授与された。

このうち本県関係の入選作品は、第1部（小学校の児童）で、八千代村立安静小学校1年の高橋まゆみさんの

作品「きれいなたべもの」が佳作に、第2部（中学校の生徒）では、結城市立結城中学校2年の久須美厚子さんと小河原康子さんの合作「中学生の海外旅行熱」が第6席に、また、結城市立山川中学校2年の渡辺阿紀さんの作品「生きがいとは……中学生は考える」が佳作となり、相変わらず全国でトップレベルの成績をおさめている。

■ 昭和46年版 茨城県勢要覧 ■

予約受付中です

さらに内容が充実しました。お申込みはお早めに！

1 定 価

450円

2 刊行予定

1月中

3 申込み先

水戸市三の丸1-5-38

茨城県統計課内

茨城県統計協会

TEL 0292 (2) 5505